

支部学術集会開催報告

第20回福井県支部学術集会

学術集会会長：福井厚生病院院長 羽場利博

2021年2月13日、第20回福井県支部学術集会は「話すことあり、聞くことありー医療を取り巻く環境の変化ー」をテーマに開催されました。参加者は42名。日本中がコロナ禍にある中、福井県は他県に比べ流行度としては低く、検討した結果、集合開催としました。シンポジスト1名のみオンライン映像共有ソフトZOOMを使用し会場に投影して行いました。特別講演の寺澤先生からは高齢者医療、研修医教育、自身の感情マネジメント他、沢山の現代医療の問題とより良い考え方や行動を含めて重要なエッセンスを御教示頂きました。シンポジウムでも医療安全専従看護師、大学看護教員、地域医療連携部署所属の薬剤師、一般演題にも医療ソーシャルワーカー、病棟看護師長、病棟薬剤師、IT情報担当看護師、手術室看護師というバラエティに富む布陣でした。今後はより多くの参加者が見込めるオンライン環境の整備が課題に感じました。

第20回神奈川支部学術集会

学術集会会長：医療法人社団相和会渕野辺総合病院病院長 世良田 和幸

2021年3月13日(土)に新型コロナ禍の現状を鑑み、オンラインで開催しました。

今回のテーマは、「病院における健康経営を考える～幸福学 プレゼンティーズムの取り組み～」とし、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授 前野隆司先生より「幸福学入門～社員と社会を幸せにする経営とは！？～」、不知火病院理事長福岡大学医学部客員教授 徳永 雄一郎先生より「コロナ禍のハラスメントの連鎖とプレゼンティーズム」を特別講演していただきました。特別講演と一般演題の動画は当日より4月12日までの1か月間オンデマンド配信しました。また、特別企画として、特別講演を行っていただいたお二人の先生を交え、「新型コロナ時代に立ち向う医療従事者の心の持ち方」をテーマにした座談会をライブで配信しました。このライブ配信の動画も1週間後より4月12日までオンデマンド配信し、期間内であればいつでも視聴できるようにしました。

演題数は約40題、参加者は約400名でした。

新型コロナ禍の中、オンライン開催ではありましたが、多くの皆さまのご支援ご協力により、無事、学術集会を開催できましたことを心から感謝いたします。

第21回大分県支部学術集会

学術集会会長：大分市医師会立アルメイダ病院副院長

高倉 健

第21回大分県支部学術集会は当初2021年2月13日の開催予定でしたが10都府県で緊急事態宣言が発令中にて4週間延期し3月13日に大分市医師会立アルメイダ研修会館で開催しました。延期の甲斐あって大分県内は開催前7日間は新規のコロナ患者は0で、学術集会には54名が参加しました。今回は新型コロナウイルス感染症に関連した内容に限定し、特別講演では大分大学医学部微生物学講座 西園 晃教授から「新興感染症の脅威～新型コロナウイルスのパンデミックから学ぶもの～」と題して新型コロナウイルスの最新情報をお話いただきました。特にワクチンについては会場内からの質問もあり詳細にご説明いただきました。シンポジウム「新型コロナ感染症対策でやったこと・これからやること」では2つの院内クラスター発生病院からの報告や県感染対策課から行政としての取組みについてお話いただき会場内からも多数の質問や提言があり大変有意義な学術集会が開催されました。



会場風景

第23回熊本支部学術集会

学術集会会長：阿蘇医療センター院長 甲斐 豊

2021年3月13日(土)に、日本医療マネジメント学会第23回熊本支部学術集会をWebにて開催しました。今回のテーマは「withコロナ時代の医療マネジメント」とし、会長講演、共催セミナー、基調講演、シンポジウムをライブ配信にて実施しました。基調講演では、全国公私病院連盟会長・全国自治体病院協議会名誉会長の邊見公雄先生から、「生命を輝かそう熊本の医療支え隊、仲間達～コロナを乗り越えて～」の演題で講演いただきました。また、一般演題は47題の演題登録があり、その中から「新型コロナウイルス感染症」に関わる演題12題のライブ配信を行いました。参加登録者は県外からの参加者を含め120名となり、当日は大きな